

何かに見える…



プツプツ模様のチーター!

エピソード

夕方、数人の子どもたちが園庭に木の枝で絵をかいていました。A児は腕を伸ばし、体をくねくねと動かしながら線をかき、1周つなげました。

A児は立ちあがり、離れたところから少しの間全体を見ると、今度はその中に黙々と点々を書き始めました。そして下に縦線を4本かくと、保育者に嬉しそうな顔で「できたぁ」と伝えました。「これ足かな?何かいたの?」と聞かれると「プツプツ模様のチーター!」と自信ありげな表情で答えました。保育者が「すごいね!ほんとにチーターの模様みたいやね」「Aちゃん、チーターかいたんだって」と周りにいた友達にも知らせるとA児は「チーターってめっちゃ走るの速いねんで」と言い、そのまますごい速さで走ってみせました。その様子を見た友達も真似をして走り出しました。

保育者の思い

- ・何かをかいているうちに様々なものに見えてくる子どもたちです。大きな園庭に思いのままにかく楽しさを大切にしたいと思い、子どもの発想や言葉に共感したり引き出したりできるような言葉かけを心がけました。
- ・友達のしていることに興味をもち始めている時期なので、真似てやってみようと思ったり、いろいろな遊びに広がっていったりしてほしいと思い、素敵なことや楽しそうなことを保育者が友達に知らせ、仲立ちをするようにしています。

子どもの育ちや学び

- ・かけた形からチーターをイメージし、自分の知っていることを絵に表現しています。
- ・保育者の問いかけに「チーターはプツプツ模様」「チーターは走るの速い」と自分の知っていることを、言葉や走るという行動で伝えようとしています。
- ・保育者に認めてもらい、自分で「チーターがかけた」という満足感をもてた体験が、自信をもって行動できる力につながっていきます。

家庭だったら

子どもが経験したことや思ったこと、見たことなどを話すのを大人が興味をもって聞き、気持ちを受け止めたり共感したりすることで、「話すのが楽しい」と満足し「もっと話したい」という意欲につながり、言葉による伝えあいを楽しむことができます。

また話したり聞いたりすることは、心の育ちにもつながっていきます。